

企画意図

近年、ストレスなどにより心の健康を損なう人が増えており、うつ病に罹患する人も増加しています。こうした病気は、適切な対処をすることにより改善していくのですが、家族や職場など周囲が正しく心の病について理解していないと、差別や偏見のために適切な治療ができず、症状を悪化させ、転職を余儀なくされたり、場合によっては自死につながることもなってしまう。

心の病を正しく理解し、本人だけでなく周囲も含めて勇気を持って適切な行動をとることは、心の健康を守るために大切なことです。そして、それはお互いを認め合う人権尊重の社会への身近な第一歩となります。

内容

職場編

中堅サラリーマンの佐伯は、配置転換後にストレスと仕事の過重により欠勤がちとなる。服装も乱れ、表情も暗くなり、業務の効率も悪くなった。上司の鈴木は、叱責したり励ましたりして業務を進行させようとするが、状況は悪くなる一方だ。ある日、職場でトラブルを起こした佐伯は病院に行くことになり、うつ病と診断された。それでも、周囲は「さぼり」とか、「仕事のできない言い訳」などと陰口を叩く。今後の対処について悩む鈴木は、人事労務担当の課長と面談し、課内の問題点について話し合う。何でも話し合え、お互いに支えあう職場環境を作ることが大切だと悟った鈴木は、佐伯も含め、課内のミーティングを開く。そこで、お互いに支えあう職場環境作りを目指すことを宣言する。



家庭編

石崎勝彦は、課長に昇進したが、仕事の責任が重くなり、負担も増えていた。ある日、遅く帰宅した勝彦は妻の友里子に「疲れたよ」とつぶやき、その場に座り込んでしまう。仕事上もうまくいかなくなっていた。ある日、会社に出かけると言ったまま公園で一日を過ごしてしまい、その後は休みがちになる。そこで、友里子は勝彦を病院に行かせる。診断は、うつ病ということ。友里子は、その診断が受け入れられず、深く悩む。休みがちな勝彦への近所の視線も気になってくる。友里子は、勇気をもって勝彦の病院を訪ねる。医師は、「うつ病は適切な処置をすれば治癒することができる病気であり、ご主人を守るためには、家族の理解と支えが大切」ということを伝える。友里子は、偏見と戦い、病気を受け入れ夫を支えていくことを決意する。



プロデューサー 中鉢 裕幸
監督・脚本 秀嶋 賢人
撮影 北條 英樹
音楽 金貞陽一郎

制作協力 フォア・ザ・ワン・プロジェクト
企画・制作 東映株式会社 教育映像部